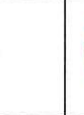


呈 欄	教育長	部 長	次 長	課 長	補 佐	係 長	館 長	館 員
								   

令和7年度第1回名取市図書館協議会議事録

日時	令和7年6月6日(金) 午後3時～4時 30 分	
場所	法務局 名取出張所 2階 会議室4	
出席委員	5名 山田里香委員 齋藤勇介委員 松本真奈美委員 今野一弥委員 本望初枝委員	
事務局出席者	名取市教育委員会 教育長 瀧澤信雄 名取市教育部 部長 山家ちとせ 名取市生涯学習課 課長 佐々木賢一 名取市図書館 館長 加藤孔敬 〃 司書 大宮佳奈 〃 主幹 鈴木香奈恵	
傍聴人	なし	

会 議 概 要

1 開会

2 辞令交付

山田委員へ教育長より辞令交付。

3 教育長あいさつ（瀧澤教育長）

委員の皆様には、お忙しい中、夏を思わせる暑い中、お集まりいただき感謝申し上げます。

昨年度2月5日の会議の際に、年間の来館者数が過去最高の 30 万人に達成間近であるとお話ししたが、その後、3月 23 日に達成した。昨年度の来館者は 30 万 5,583 人。一昨年度に比べると、約 2 万人増加している。今年度は昨年同期を上回るペースで来館者が増加している状況で、図書館が多くの市民、周辺の方々に愛されており、訪れて来ている状況を大変嬉しく思う。一方で、入館者数が増加しているが、貸出数がほぼ横ばいであり、50 万冊前後で推移している。今年度は教育委員会や図書館としてもどうしたら貸出数を増やしていけるか、考えて取り組んでいく。教育委員会では、令和3年に作成

した、名取市子ども読書推進計画（第2次）の新たな計画を作成するところである。

また、昨年度市内の小中学校の子ども達にアンケートを取った。対象は小学校4年生から6年生、中学校1年生から3年生。「昨年の10月1ヶ月間に何冊本を読んだか。」という項目がある。名取市の小学生が19.1冊。県平均が11.6冊なので倍まではいかないが、かなり名取市の小学生は本を読んでいる。1ヶ月に1冊も本を読まなかった不読率は県が9.4%、名取市は2.9%で、かなり少ない。中学生は、1ヶ月平均で名取市が7.4冊、県が3.1冊、その差は倍くらいある。不読率は、県が20.8%に対して、名取市は17.2%。県よりは少ない状況になっている。また、毎年文科省が全国学力学習状況調査を行っているが、一昨年まで、子ども達への質問の中に、「読書が好きか。」という項目があり、名取市の小中学生は、全国平均、県平均よりも、多くの子どもが「読書が好きだ。」と答えている。これは、名取市の学校、図書館、民間の様々な方が読書や図書館を大切にしていたり、子ども達が本を読むことについての様々な取り組みをしている1つの成果の表れだと思う。もちろん課題もあり、計画作成にあたっては、もっと多くの子どもに本を読んでもらい、豊かな心情を養ってもらおうということを含めて考えていきたい。

本日は、昨年度の事業報告と、今年度の事業計画について、事務局から説明する。各委員の皆様におかれましては、忌憚の無いご助言、ご指導いただければと思う。

4 委員紹介・職員紹介

5 会議成立の確認

名取市図書館条例第11条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているため、会議は成立していること報告。併せて、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となることを報告。

6 副会長の互選

副会長について、条例第10条第1項の規定により委員の互選。

副会長 山田委員 に決定。

7 議事

条例第11条第1項の規定により、松本会長が議長となり議事を進行。

(1) 令和6年度事業報告について

① 資料に基づき大宮司書説明。

② 行事等について、スライドショーにて大宮司書説明。

松本議長

過去最高の入館者数を記録したということ、個人の貸出数は若干減少したが、団体での貸出数は増加しているということ、利用者のニーズに即したレファレンス業務を丁寧に行っていること等の説明があった。事業の実施状況は、スライドを活用し、様々な取り組みについて、ご報告いただいた。

では、委員に意見・質疑を求める。

今野委員

仙台高専のティーンズコーナーや科学イベントでお世話になっている。特に最先端のナノテラスを小さい子どもに説明するのに、とても悩みながら開催したが、大変勉強になった。1点ずつ、質問と要望がある。質問は、時期的に利用者数の増減の波があるのかということを伺いたい。要望は、また科学イベント等で子ども達に科学を広めることにご協力したい。

加藤館長

質問については、時期的なものでは、学生のテストシーズンになると利用が飛躍的に伸びる。また、夏休み時期と冬休み時期の利用がとても多くなる。1日の流れになると、日中、朝一から午前中までは、仕事をリタイヤした方や、親子での利用が多くなる。お昼以降になると、学校が早く終わった学生達の姿が見える。土日祝の日中、2階は沢山のファミリー層で賑わう。3階は学生達の利用が多い。

ご要望に対しての回答であるが、是非理科、科学の魅力を子ども達に伝えていただきたいと思う。日程等の調整をして開催できればと思う。

本望委員

沢山のイベントが企画されていて、人と人との繋がり、結び付きを深め、豊かにするねらいがあって行われていると感じた。特に令和6年度において、期間展示、行事が増えている。質問は、沢山の企画をされて、例えば婚活イベントの開催、学生達が多く活動しているが、そのようなことが、そこで終わりではなくて、その後図書館の本をもっと活用したようなことに繋がっているのか、学生達が勉強した後に、更に興味を持って本を借りて調べるというようなことはあるのか、伺いたい。

加藤館長

図書館イベントや図書館を利用している方のご利用が、ずっと継続して欲しいというのが図書館側の思いである。一方で、一時的に世代的に図書館の利用から離れることがあるかもしれないが、結婚して子どもを産んでという人生サイクルの中で、「久しぶりに利用する」と、また図書館に戻って来てくれる方もいる。また、仕事をするようになると、図書館の使い方も変わり、カフェで商談をする方、PCコーナーで仕事をする方、仕事に関する本を借りる方もいる。

図書館の使い方、関わり方は、多様化しており、そのような使い方もあるとこちらも学んでいる。

齋藤委員

取り組みの着目点が素晴らしいと思った。来館者数が過去最高になったのも、そのようなしっかりした着目点を持って取り組んでいることが実ったのだと思う。今、本屋が閉店している時代の中で、本屋の運営形態は、本をただ展示しているだけではなくて、居場所を提供する機能を持たせて、そこに足を運んだ人達に本を買ってもらおうとか、そのような視点になっている。図書館の来館者が増加しているということは、居場所作りにしっかりと取り組んでいることだと思う。また、一般企業のように、営業をし、雑誌スポンサーを獲得している等、民間の視点に着手している。そのようなところが、利用者の増加に繋がるなど、今回報告された数字に表れている。貸出冊数は、それが横ばいであってもニーズの変化があるので、やむを得ないと思う。むしろ電子書籍等が出てきている中で、健闘している。図書館は、学生に対しても、居場所になっている。また、紙の本から電子書籍を見つけたり、また逆に電子書籍から紙の本を見つけるといったことのきっかけになっている。今回報告の数字にとらわれることなく、ニーズに沿った世情調査も含めて取り組んでいただけたらと思う。

山田委員

学生の夏休み、冬休み期間の利用が多いということだが、自分自身もよく県立図書館を利用しており、居場所を求めている人が多いと感じる。学生も、図書館が混んでいるとカフェで勉強したり、飲食できるブースで長く過ごしている人も見受けられる。そのような場面を見ていると、居場所作りは重要であると感じる。教えていただきたいのは、図書館では、新聞を17誌閲覧提供しているとのことだが、子ども達がなかなか新聞に目がいかない。調べ学習の際に、小学生新聞を使用することもあるが、家で新聞をとっている家庭が少なくなっている。何か、新聞を、小学生だけではなく、様々な方に見てもらうためにしている取り組みはあるか参考に教えていただきたい。

大宮司書

今年度図書館を使った調べる学習コンクールが10回目ということで、チャレンジ講座の中でスペシャル版で外部講師をお招きする。新聞社の方をお招きして、新聞を使った講座を開催する予定である。この方は、図書館担当者職員の中で大人向けの講座を実施した時に、当日の新聞で一番気に入った記事を切り取ってそれについてのコメントをするというワークショップを行った。人それぞれ全く違う記事を選ぶことが新たな発見となり、子ども向けイベントに繋がった。

加藤館長

補足として、講師は新聞社の記者で、講座への熱意を持った方であり、人への伝わり方が違う。新聞を活用していただくために、学校にも伺いたいとのことだったので、お伝えする。

松本議長

他に意見・質疑はないか。

委員

なし

(2) 令和7年度事業計画について …資料に基づき大宮司書説明

松本議長

委員に意見・質疑を求める。

山田委員

なとりっこすくハピ事業のように、字の読めない年代から、高齢者の方まで、幅広く展開しており、市民全体を巻き込んで、楽しいイベントが沢山あり、私自身も参加してみたいと思うようなものもあった。

齋藤委員

令和7年度もわくわくするような事業が計画されており、素晴らしいと思う。ナイトライブラリーの実施の様子をフェイスブックで見っていた。他にも情報発信の工夫をされていると感じていたが、令和7年度も様々な方に情報を届けていく、新たなツールをお考えであればお聞きしたい。

加藤館長

情報発信の手段として、SNSではフェイスブックを利用していたが、若い世代にはインスタグラムを見ている人が多いということで、現在手続きをしていたところである。丁度、昨日、名取市図書館のインスタグラムを開設した。まだフォロワーは職員の2名であるが、徐々に発信し、少しずつ育てていきたい。加えてフリーペーパーにも掲載してもらっており、引き続き情報発信していきたいと思う。

本望委員

ますます行事等が興味深く、新鮮なものが多く、感心し、参加してみたいと思ったのと、イベント情報を知らないでいることのないようにしたいと思った。なとりっこすくハピ事業についてであるが、3歳6ヵ月健診の時に、券を配布して、その券を図書館に持参すると、4冊のうちのどれが1冊を差し上げているのか。

加藤館長

お見込みの通り、図書館に来ていただいて、お好きな本を選んでいただき、プレゼントしている。

今野委員

かなりの数のイベントを開催しており、皆様の努力が感じられる。敬意を持って拝聴していた。仙台高専の図書館でも良い意味で勉強しながら、お互いに本を提供する等、是非相互に協力できるような取り組みをやっていたらと思う。

松本議長

他に意見・質疑はないか。

委員

案のとおりで、異議なし。

(3)その他

加藤館長

「チャレンジ講座」、「なとりっこすくハピ応援事業」、「図書館体験」、「Let's理科読」のチラシの配布。以下、チラシを基にご案内。

「本で地域文化を掘り起こす」(6/27(金)ナイトライブラリー)では、南陀楼綾繁(なんだろうあやしげ)氏(ライター)をお招きする。

「図書館が多く充実している町ほど要介護者が少ない 高齢者7万人調査で明らかに」は、佐藤豪竜氏の論文の要点を書き起こした記事の紹介。図書館の存在意義が数字として表れており、図書館で働いている者として、嬉しく思う。また、「読んだら忘れない読書術」は、10年前に出版された本で、精神科医が書いたもので、6分の読書でストレスが発散される旨が書いてある。これらの本にもあるように、本や図書館の持つ力、存在意義が裏付けされてきていることに、嬉しく思う。

新聞記事のデータベース、国立国会図書館資料をデジタルデータで閲覧利用が可能なことから、是非、お近くの方、お知り合いの方に、周知と利用の呼びかけをする。

松本議長

お気づきの点はあるか。
なければ終了とする。

委員

なし。

6 副会長あいさつ(山田副会長)

本日は、昨年度の実績をもとに、今後の方向性をかたちづくる有意義な話し合いができたと思う。今年度も加藤館長のもと、子ども達、学校、名取市民に向け、発信力のある図書館運営をしていただいていることに感謝申し上げます。現在、相互台小学校では、国語科の研究を進めており、読む、書く、話す、聞くといった、基本的な言葉の力の育成に取り組んでいる。幅広い語彙、または言葉に触れるもつとも効果的な方法の 1 つとして読書と言われている。読書は知識の獲得、思考力の向上、語彙力の増加、想像力や共感力の育成等、多岐にわたり、メリットがあると言われ、また、脳を活性化させる、ストレス軽減にも効果的であると言われている。学校や学級の図書館を中心に、工夫しながら読書の励行をおこなっているが、メリットが大きいと分かっている、なかなか個人で機会を作り、継続していくのは難しい人もいると思う。そのような中で気軽に本に触れ、自分を豊かにしたり、高めるのに、最適な場所が図書館ではないかと思う。活字の情報だけではなく、芸術や文化的な教養を高めるのにも図書館は良い環境にあると思った。今度も図書館と連携させていただき、学校教育、社会教育、家庭教育、それぞれの立場から読書の良さを伝えていくことを続け、名取市の図書館の運営にお力添えができればと思う。

7 閉会